

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	270201445		
法人名	津軽保健生活協同組合		
事業所名	津軽保健生活協同組合健生介護センター虹		
所在地 (電話番号)	〒036-8066 青森県弘前市向外瀬豊田292-1 (電話) 0172-35-7611		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 21年 1月 23日	評価確定日	平成 21年 3月 24日

【情報提供票より】(平成21年1月7日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	11人, 非常勤 6人, 常勤換算 12.64人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2 階建ての 階 ~ 1 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円
敷金	有( ) 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 0 円
または1日当たり 1,200 円			

### (4) 利用者の概要(1月7日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	6 名	要介護4	9 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.8 歳	最低	66 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	健生病院、健生クリニック、藤代健生病院、成田歯科クリニック
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街や大型スーパー・服飾店の近くに位置しており、ホームではそれらの店舗の他警察や小学校へ毎年挨拶回りに出向いている。建物からは田んぼや岩木山が眺められ、入居者の気分転換になっている。ホームに看護師を2名配置しており、緊急時不在の場合でも同建物内の他事業所から看護師が応援に来てくれる体制が出来ている。職員も緊急救命訓練やAED講習を毎月行っている。外部研修へも積極的に参加しており、ホーム内(法人内)でも拘束ゼロ推進・安全・学習・給食・環境美化等の委員会を設け勉強会を毎月開催している。権利擁護制度の利用や重度化・終末期対策にも力を入れている。今年は「みんなの願いを叶える」ことを目標としており、入居者の希望にそったサービスを心がけている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	夜間災害時に備え防災協力員の委嘱をしてみてもどうかとの提案を受け、次の災害訓練時に近隣の住民にも参加していただけるよう計画である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の報告に対しては全員で話し合い、改善に向け取り組んでいるが、自己評価については主に担当者が行っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では行事や外部評価の報告を行っている。積極的に家族へ参加していただけるよう取り組んでおり、毎回違う家族へ出席を依頼している。関係機関からは他事業所での取り組みなどを聞き参考にしている。入居者本人の参加も検討中である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	家族へは入居説明時にホーム及び他機関の意見・苦情窓口を説明している。家族面会時など日常的に声をかけて、気軽に意見要望を言って頂けるように努めている。苦情ボックスを設けており、ボックスの鍵は法人の院所利用委員会が管理している。検討した内容を公表する体制もできている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	近くのスーパーや警察、小学校へ毎年挨拶回りに出向き、なじみの関係ができるようにしている。近くの小学校のねぶた集会へ参加したり、ホームでの夏祭りへ地域住民や法人組合員を招いてもらったりして交流している。地区の町内会にも入っており、組合長が広報誌を配達に来てくれている。

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域密着型サービス」となる以前から、地域社会で生活することを理念としてもっていたが、あらためて理念を考え作っている。認知症であっても地域の中で暮らしていけるよう、なるべく地域の中へ出掛け、繋がりがもてるように支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングやカンファレンス時に理念を話題にしている。職員にも浸透しており、地域で暮らすことを意識してサービスを提供している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	周辺の小学校や保育園、警察(駐在)、スーパー等へ毎年挨拶まわりに出向いている。法人でヘルパー研修を行っているので、講師の派遣をしている。近隣の小学校のねぶた集會に招待され参加している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価の報告書は全員で確認して、今後の取り組みを話し合っている。自己評価では各ユニットの担当者が作成しており、他職員へ意見を求めることもある。しかし自己評価は主に担当者一人で行っている。</p>		<p>評価は一連の過程を職員全員で行うことで、職員の意識合わせやケアの振り返り、見直し等が可能になります。外部評価報告の確認だけでなく、点検しやすい項目からでいいので自己評価も全員で取り組んでみてはいかがでしょうか。</p>
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回定期的に開催し、会議を各関係機関、家族から情報を頂ける場として捉えており、積極的に意見が出され、話し合いを行っている。行事や防災、外部評価等の報告を行い、意見を頂いている。家族へは予め参加できる月を伺い、毎回違う家族に参加してもらっている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議後に市担当者と情報を交換している。何かあったときにも気軽に相談できる関係ができています。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>実際に両制度を利用されている入居者がおり、制度についてはよく学んでいる。家族との関係が薄いと思われる入居者の方へは事業者側から働きかけている。重要事項説明書にも制度について載せ、家族へ説明している。制度に関する勉強会の開催を計画している。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待・拘束委員会があり、防止に向け取り組んでいる。虐待防止法の研修会へ参加したり、虐待に関する勉強会を毎年全職員で行ったりしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前までに重要事項の説明を十分時間をとって行っている。重度化した場合や着取りについても意向を伺っている。料金改定時にも説明して同意をもらうようにしている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族面会時に近況を話している他、毎月の便り「ひなた新聞」に入居者別に担当者から普段の様子を書いて家族へ渡している。預かり金の出納帳も面会時にチェックしてもらっている。権利擁護制度を利用している方へは、後見人にチェックをお願いしている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居契約時に意見・苦情等の窓口を説明しており、事業所以外の窓口も紹介している。また、日常的に声をかけて意見要望を伺い、話してもらっている。苦情ボックスも設けており、ボックスの鍵は法人の院所利用委員会が開けている。その苦情、意見への検討・対策内容も掲示して公表している。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動はできるだけ無いように配慮している。やむを得ず異動があった場合は引継ぎ期間を十分に取るようにしている。異動は、便りや家族会などで家族へも報告するようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホーム協会の研修等を盛り込んだ年次研修計画を立てている。その他各自参加したい研修の申し出があれば、事業所として職員を積極的に参加させるし、参加できる雰囲気がある。研修の報告書も全員で周知確認できている。感染症、リスクマネジメント、法令遵守、救急救命法等の学習会も計画的に実施している。介護福祉士等の資格取得を奨励している。毎年職場長と職員の個人面談をしており、その年度の目標を各自に持ってもらっている。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会の研修には積極的に参加するようにしている。近くに他法人のグループホーム、ケアハウスがあるので交流を計画している。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に見学を受け入れたり、ホーム側より本人の所へ出向くこともある。入居前の情報交換を関係者と密に行うようにしている。ショートステイや有料老人ホーム等から来る方の場合、その事業所と本人の情報をやり取りしている。また、入居まもない頃には家族へ面会を促すようにしている。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>認知症があってもその人を敬い、支えあう関係づくりに努めている。サービス計画書へは、「 のやり方を教えてもらう」等、入居者の能力を活かした計画を立てるようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日頃から入居者の思い、希望を把握するように努めている。自宅へ戻って暮らしてみたいという方を一度帰宅させてみるなど、できるだけ本人の意向に合わせた取り組みをしている。入居者みんなの「願い」を叶えることを目標としており、一人ひとりの願いを大切にしている。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の能力を発揮できる介護計画となっている。確認の取れる方には、入居者本人に計画内容を確認してもらっている。日頃から入居者、家族から要望を聞き出すようにしている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは3ヶ月に一回又は状況変化の都度行っている。朝夕のミーティング時にカンファレンスを行う他、月に一度は職場会議で入居者の状態について話し合い、ケアの方向を決めている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>遠方から家族が来た時には、布団・ベッドを貸し出して宿泊の対応をしている。病院受診時の送迎、行きつけの所への送迎を行っている。入院時にも、情報が共有できるように病院と情報交換している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それまでのかかりつけ医があれば、継続して受診できるよう支援している。協力病院以外への受診は、基本的に家族に対応してもらっているが、状況を見て施設でも付き添うようにしている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に説明して本人、家族の意向を聞き、確認書を頂いている。確認書には「最期に誰に付き添いしてほしいか」「食べたいもの」「行きたい所」などの欄も盛り込まれている。家族が集まった時や、本人の状態が変わった時など、折りを見て意向に変化がないか聞くようにしている。年2回の家族会でも話題に出し、方針を共有できるよう取り組んでいる。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに関する研修は年1回行っており、入室時や入浴時等にはプライバシーを損ねることのないよう気をつけている。排泄誘導時にはさりげなく声がけがされていた。記録物の管理にも気をつけている。ただ、プライバシーに関する施設の方針はあるが、マニュアルの整備がされていない。		さらなる個人情報の安全管理のためにも、個人情報保護法に基づいた基本規則や、より具体的な事業所でのルールマニュアルを作成し、情報の取扱方を職員間で確認してみたいか。
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせ、一方的な介助にならないよう必ず本人に伺ってから行うようにしている。テレビを見る方、部屋ですごす方、リビングでくつろぐ方、それぞれ思い思いの過ごし方をされていた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝と晩は調理室で調理しているが、昼は各ユニットで入居者に下ごしらえ等を手伝ってもらいながら調理している。栄養士がメニューを作っており、一般食、軟菜食、きざみ食等、入居者の状態に合わせて提供している。好みを把握しており、食べられないものへは代替のメニューを用意している。その他食べたいものは、家族に持ってきてもらったり、買い物時に購入して提供している。職員は同じ食卓で食事をしながら、さりげなくサポートしている。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回(夏場は3回)、日・木を入浴日としており、入りたい時間帯の希望を聞きながら行っている。準寝たきりの方へは職員2人で対応して、安全を図っている。男性職員もいるが、同性介護に配慮している。同建物内のデイサービスの大浴場も利用することができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人、家族より要望を引き出し、本人の能力に合わせて行っている。食器洗い、食事の下拵え、掃除、洗濯物たたみ等、役割を見つけて支援している。東通りユニットでは毎日気分転換として、本人の思いを尊重しつつ自信が持てるよう簡単なドリルを行っている。		
28	58	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩へは毎日出かけるようにしており、週に一回ドライブへ4～5人でメンバーを入れ替えながら行っている。その他にも月1回行事外出がある。外出できない日でも、玄関から岩木山が眺められるので、気分転換に連れて行ったりしている。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束予防に向けた勉強会を年1回行っており、職員の共有認識を図っている。徘徊や転倒の危険性のある方にはセンサーマットを使用している。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は夜間のみするようにしている。玄関付近の事務員や、同建物内のデイサービス、ショートステイの職員とも連携して入居者を見守るようにしている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災委員が災害訓練計画を立てて、年2回昼と夜に火災訓練を行っている。毎回シナリオを変えて行い、出火場所を敢えて教えないこともある。地震訓練は過去に1回だけ行ったが、現在はしていない。委員は消火機器の点検も行っている。新人職員には消火器の使い方を教えている。災害時には食事は健生病院から提供してもらえる事になっており、備蓄の水もある。近隣の協力体制がとれるよう、次の火災訓練時に参加依頼を計画している。		火災訓練だけでなく、地震等の発生にも備えた継続的な取り組みを通じ、想定される災害への備えを万全とされることを期待します。
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は入居者全員を記録するようにしている。水分量も必要に応じて記録している。栄養士がメニューを作っており、カロリー・栄養バランスのとれたメニューが提供されている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防のマニュアルがあり、その時節に合わせた感染症の勉強会を開催している。手洗い・うがいは職員はもちろん、入居者も徹底している。インフルエンザの予防接種を入居者に勧めており、職員と共に全員行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b></p>					
<p><b>(1) 居心地のよい環境づくり</b></p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールには加湿器、居室には濡れタオルや霧吹き、水を張った容器を置いて湿度管理している。換気も随時行っている。季節のものを飾って季節感ができるよう工夫している(調査時には書初めが掲示されていた)。テレビの音量にも気が配られていた。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には家族の写真や位牌、趣味のものが置かれ、その人らしい部屋づくりがされている。希望に応じてテレビ、電話も部屋へ置いている。フローリングだが希望に応じ、畳にすることもできる。本人の手の届きやすいところに物を配置する配慮がされている。</p>		

 は、重点項目。